

2016年度(平成28年度) カラ事業報告書

事業資金	予算
収入 会費収入	600,000
寄付金収入	3,000,000
事業助成金・補助金収入	4,700,000
収入合計	8,200,100
予定事業項目	
現地事業、保健の部：女性健康普及員育成事業(35人)	200,000
2ヶ村産院建設費・備品費	1,900,000
女性自立事業：女性センター建設・備品費	2,000,000
事業管理費(現地スタッフ人件費8人分、その他関連費)	1,520,000
マリ事業所経費	450,000
マリ側事業支出 #1	5,000,000
国内事業費：広報啓発費(機関誌発行、コンサート費用、他)	400,000
事務局・その他の経費	1,000,000
国内事業支出 #2	1,400,000
本年度支出合計 #1 + #2	6,400,000
次期繰り越し	1,800,000
支出の部合計	8,200,100



ドンギネ小学校の落成をダンスで祝うお母さんたち

ご注意ください:任意団体となり会の名称は「カラ西アフリカ農村自立協力会」となりました。

特定非営利活動法人 カラ西アフリカ農村自立協力会

<http://ongcara.org/>

東京事務局

〒177-0054

東京都練馬区立野町7-9 クリオ吉祥寺壱番館101

Tel:03-3929-5767

E-mail: centre@ongcara.org

バマコ事務局

BP E367 BAMAKO MALI

Tel:223-2020-9096 Fax:223-2020-3589

カラ東京事務局が移転しました。

新住所:〒177-0054 東京都練馬区立野町7-9 クリオ吉祥寺壱番館101 電話:03-3929-5767

1993年にカラを組織してほぼ24年が経過し、マリ共和国の農村地域において支援事業を継続してきました。近年、現地における人々の生活環境や意識の変革を折にふれ見、聞きした時に、これまでの我々の支援が日常に活き、人々の意識の中にしっかりと植えつけられ、自らの力で生きていけるという自信と、生きようという積極的な力を感じます。

我々の支援には限界があります。行き過ぎた支援は弱効果をもたらすものと考えます。いわゆる、人々の自立する力を感じた状況で、2016年3月を区切りに、カラの現地における支援事業は撤退の時ではないかと考えました。

これは、2016年7月に現地女性スタッフのアワ カンサイが来日し、その折に行われた事業の報告や講演会で、支援事業のこれまでの経過と成果が、一つの出来上がったものであるかのように説明できる段階に達していた、ということです。これは支援事業に携わる者がひいき目を感じるのではなく、全く客観的な見方をしてそのように感じるのです。

2017年3月で終了した学校建設というカラにとっては大規模な事業と、その契約終了に伴う現地スタッフの解雇などが、カラもソロソロここを撤退したら、と暗に示しているようにも思えます。

それから、他の大きな問題は、今まで非常に穏やかな国として知られていたマリ共和国もイスラム国の影響に脅かされてきたことです。時々発生する危険な状況は日本人スタッフの渡航を不可能にしてきました。今後の状況が良くなるということも見込めません。

このような多くの事情で2017年3月26日にカラの臨時総会を開き、支援事業にけじめをつけることが討議され、その結果参加者の全員一致で法人としてのカラを解散して、経費的にもあまり負担のないような任意団体となることを決めました。

法人という資格は事業の資金獲得に有効で、外務省からの支援でこれまで20校以上の学校建設、病院、深井戸の掘削、その他多くの事業を行ってまいりました。小規模な団体としてはかなりの数だったと思っております。産院の運営も赤字は生じていない運営で地域に貢献しています。その他多くの事項を含めて、すべてに無駄が無く非常に人々の役に立っていることは、カラの大きな誇りです。今後は収入を得る道を知ったアシスタントスタッフを先頭に、彼ら自身の力で地域の発展に貢献していくと考えます。

しかし、カラは支援事業を全て止めるものではありません、これを機に支援の方向を変えることにしました。優秀なスタッフに育ってくれたアワカンサイを中心に、遅れている保健事業と女性適正技術の指導をダウンバ地域で進めてまいります。トウグニ地域での同様の成果を知った住民からの強い要望があったためのものです。精一杯努力している現地の人たち同様、私たちも出来る限りの力を尽くしてまいります。

今後みなさまのご理解ご支援を頂戴いたしたくお願い申し上げます。



アシスタントスタッフに村人は苗木を買いに来るようになりました

2015年度と2016年度に渡った日本外務省支援の日本NGO連携無償資金協力(通称 N連事業)の2年間で6学校の建設事業も完全に終了しました。事業対象となった村のみならず周辺の村々の住人やコミン長から、またクリコロ県の教育長からも非常に感謝されました。

2016年度は4校の建設でした。この事業によって今まで不足していた教室が増築されて2年毎の入学だった新一年生は毎年の入学が可能になりました。授業時間も充分取れるようになりました。ドンギネ小学校やゲンドウ小学校は約30年前に村人による土レンガ建設の学校のため半ば崩壊している教室での授業でした。これは非常に危険な状況で子供を送り出す両親にとっては心配事の一つでした。これも改善されたのです。

2017年2月26日に4校の落成・鍵引き渡し式が行われました。カラを代表してアワ カンサイが出席しました。この鍵の引き渡し式は、日本では目にしたことがありませんが、マリで通常行われる式です。

最初に建設業者からカラへ、カラからコミン長へ、コミン長から村長へ、村長から学校の校長へ引き渡されるのです。4ヶ村の小学校で同じことが行われました。

式の時の挨拶では、コミン長は、カラが撤退した後もしっかりと管理を行うことを約束し、「これまで幾度となくマリ政府へ申請しても建設してくれなかったが、日本政府が建設してくれたことに深く感謝します」と、校長は、「入学を希望する家庭があっても教室が足りなかったのが受け入れることが出来なかった、これからは毎年入学させることが出来る。これで中学校へ進学する生徒も増えるだろう」。また村長や母親たちからは、女兒を教育させることが出来るし、小学校が村内にあるので幼い1年生を安心して送り出せ、昼食の為に戻って来やすくなる、と多くの人に感謝されました。この事業は、村の人たちのみならず、地域全体の人たちにとって非常に役立ち、有効であり地域の発展に貢献できると実感しました。



コニナ小学校へ増築された3教室



学校の鍵がコミン長からコニナ村村長へ渡されます
中央はアワ カンサイ



生徒が並んで手拍子で式典出席者を歓迎しました

ダウンバコミュンに於いて、2016年5・6月にそれぞれバググ村とニャマコロブグー村に産院が開設しました。機関紙「からばす」等でも再三申し上げていますように、カラは村出身の助産師を育成しましたが、経費の都合で看護師の育成までは至りませんでした。

しかし村では、看護師も希望しそれぞれの村で看護師を雇用することになり結局産院は診療所としても運営されるようになりました。これは、村でも経済的な面を負担して彼らの為の施設であるという意識を十分に持ってもらうものです。開設後すでに1年近くが経過しようとしていますが運営状況は上々です。しかも経費の一部を女性グループが積極的に産院に寄付していることです。

私たちは、「頑張れば出来るじゃない!!」ということを再確認しました。毎月マリから日本本部へ送られてくるレポートにはカラが今まで開設した9ヶ村の産院の運営状況が届きますが、次の表は、2016年開設のバググ、ニャマコロブグー村産院・診療所だけの運営状況を次の表にまとめてみました。



村での学習会講師は健康普及員

	一般診療科	出産	妊婦検診	家族計画	収入	支出	残金
	来院者数	数	者数	者数	(円)	(円)	計
バググ産院	372人	30人	25人	9人	442,172	285,890	156,282
ニャマコロブグー産院	272人	33人	42人	12人	251,016	162,699	88,317

※バググ村産院:2016年5月から2017年3月までの報告。
ニャマコロブグー村産院:2016年7月から2017年3月までの報告。

未だスタートしたばかりですが、今後の進展ぶりを楽しみにしています。

バググ村産院には、専用の浅井戸を掘削しました。これまでは住民に何も支援をしなかったコミン長が、看護師用の住宅を建設してくれたので住民は大いに驚いています。

『女性健康普及員』の育成は、ダウンバコミュンでも始まりました。すでに6ヶ村から30人が育成されました。

この事業開始時にダウンバコミュン全体の27ヶ村に告示しましたが、参加は6ヶ村のみでした。その女性たちがカラ主催の研修会を終えて、各自の村で活発な活動を開始しています。毎月村で開かれる2・3回の話し合い学習会では質問が多く出てとても熱心に学んでいます。研修会も、村での学習会も記憶に頼るだけのものですから、講師となる普及員自身が内容を忘れることも多く、繰り返して学習をしています。『女性健康普及員』のいない村からも長い道のりを学習会に参加する人たちもいます。どこの村でも母親は、病気になった時に



お母さんが研修を得ている傍で赤ちゃんがスヤスヤと寝ています。

はどのようにしたらいいか、病気にならないようにするには何に気を付けたらいいのかわからない、などと多くを知りたいのです。特に子供の病気については大きな問題です。お金をかけて診療所に行く前に家庭で出来るだけの処置をしよう!!という母親の声が高くなりました。

この保健環境の改善に対する事業には、どこの村でも住民が一体となり取り組んでいます。



設置された井戸の水量をチェックしている健康普及員

その他の活動

長い間要請があったバググ村の野菜園が補修され、野菜栽培が再開しました。この野菜園は1994年にダウンバ地域で一番最初にカラが開設した野菜園です。当初は野菜がたくさん生産され、これが理由でバマコからバググ村を通り人口の多い4km東のファニ村までの定期バスが開通され、評判を呼んでいました。しかし、年を経過するに従い、またカラが2000年にトウグニコミュンへ移動した後、野菜園周囲の金網の防護柵が家畜によって破壊され、栽培した野菜が食い荒らされる被害が続き次第に活動が停滞してしまいました。

カラはかなりの資金を費やして開設した野菜園ですから、防護柵の補修は村自体で修理するように言い渡していましたが、女性たちが資金を蓄えては何度か村の男性に頼んで修理をしましたが上手くいかなくてそのままになっていました。カラは修理資金を得たので2017年1月に修理が終了して野菜園を再開しました。これからは過去の野菜栽培が活発であった状況を取り戻すことを期待しています。野菜園を護る女性たちも以前にも増して強い気持ちで野菜園を管理すると思います。

これまでにカラはトウグニコミュン、ダウンバコミュン、クーラコミュン内の約88ヶ村で40ヶ村に41ヶ所の野菜園を開設しました。全ての野菜園には井戸を設置してありますが、野菜栽培に問題がないわけではありません、それは時々発生する水不足の問題です。

このような野菜園からは、井戸を増設する要請がありますが、とても受け入れることは出来ません。すべては村自体で解決するように指導しています。

野菜栽培からの一番のメリットは、野菜を一年中自家消費出来る状況になったことです。勿論、それによる収入が女性に入ってきます。ほとんどの収入は子供の養育や学費に使われるようですが、夫の仕事を助けてもいます。女性にとって自由に使えるお金があることは、力をつけて、自信をもつようになり自立に拍車をかけています。女性の今後の発展が非常に興味深いことです。



再開したバググ野菜園母親の手伝いです

2016年度(平成28年度)収支決算のご報告 (円)

収入の部	平成27年度決算	平成28年度決算
会費収入	780,000	664,000
寄付金収入	6,828,744	3,211,711
事業助成金・補助金収入	36,278,543	1,540,000
短期借入金収入	2,000,086	536,840
受取利息	588	96
前期繰越金	16,345,944	34,678,125
収入の部合計	62,233,905	40,630,772
支出の部:海外事業費		
保健衛生事業	1,350,000	72,103
水資源確保事業	1,333,555	19,895,944
教育の普及/学校建設/他	5,510,790	
野菜園事業	0	1,750,010
環境保全事業	1,183,967	
監査法人監査費	359,675	103,152
プロジェクト雇用費	2,816,232	3,986,246
プロジェクト運営管理費	5,634,766	3,961,408
マリ事業所経費	1,272,831	316,377
短期借入金返済支出	0	500,000
為替差損	49,713	2,153
マリ側事業支出 #1	19,511,529	30,624,233
支出の部:国内事業費		
広報啓発費	809,952	757,569
管理費(渡航費を含む)	7,176,799	6,962,594
短期借入金返済	0	2,000,086
諸会費	55,500	0
国内事業支出 #2	8,042,251	9,720,249
本年度支出合計 #1 + #2	27,553,780	40,344,482
次期繰り越し	34,680,125	286,290
支出の部合計	62,233,905	40,630,772

2017年度(平成29年度)4月1日～5月31日までの清算収支会計

収入の部:前期繰越収支差額	286,290	支出の部:法人解散関連費用	301,108
寄付金	14,818		
収入合計	301,108	支出合計	301,108
法人清算収支差額		0	

監査報告書

貸借対照表
平成29年 3月31日現在

資産の部 (単位:円)		負債の部 (単位:円)	
勘定科目名	総計	勘定科目名	総計
(流動資産)			
現金	236,290	短期借入金	
普通預金		預り金	
郵便貯金		未払法人税等	
前渡金	50,000	負債の部合計	0
流動資産合計	286,290	正味財産の部 (単位:円)	
(固定資産)			
債券		勘定科目名	総計
定期預金			
車両運搬具			
器具備品	682,090	指定正味財産合計	0
減価償却累計額	-682,086		
電話加入権	76,440		
事務所保証金		一般正味財産合計	362,734
固定資産合計	76,444	正味財産の部合計	362,734
資産の部合計	362,734	部	362,734

上記第15期の会計については、正確、且つ適正に処理されていることを確認いたしました。

平成29年6月25日
監事 滝口 謙三
監事 神山 明子

国内事業について

平成28年度 国内事業

- 4/03 『女性歯科医師の集い2016』にて講演
- 5/15 白梅同窓会東京支部にて活動紹介
- 5/21 明星大学にて講演
- 7/26 カラ活動講演会日本中近東婦人会
- 7/31 カラ活動講演会「アワを囲んで」
- 8/08 「マリの医療」群馬パース大学
- 8/10 カラ活動報告会 WF基金にて
- 8/10～31 宮城学院創立130周年記念行事
- 9/29 JICS事業御報告会
- 10/29 「紫波町ふるさと会のつどい」活動紹介

平成29年度 国内事業予定

- 5/27 明星大学にて講演会
- 6/08 「山上の光賞」授賞式
- 9/28 JICS 事業報告会
- 10/28 日本中近東婦人会バザー、活動紹介
- 12/03 カラ「かけはし」コンサート